

## 平成 27 年度 第 1 回 事例検討会・多職種交流会 実施報告

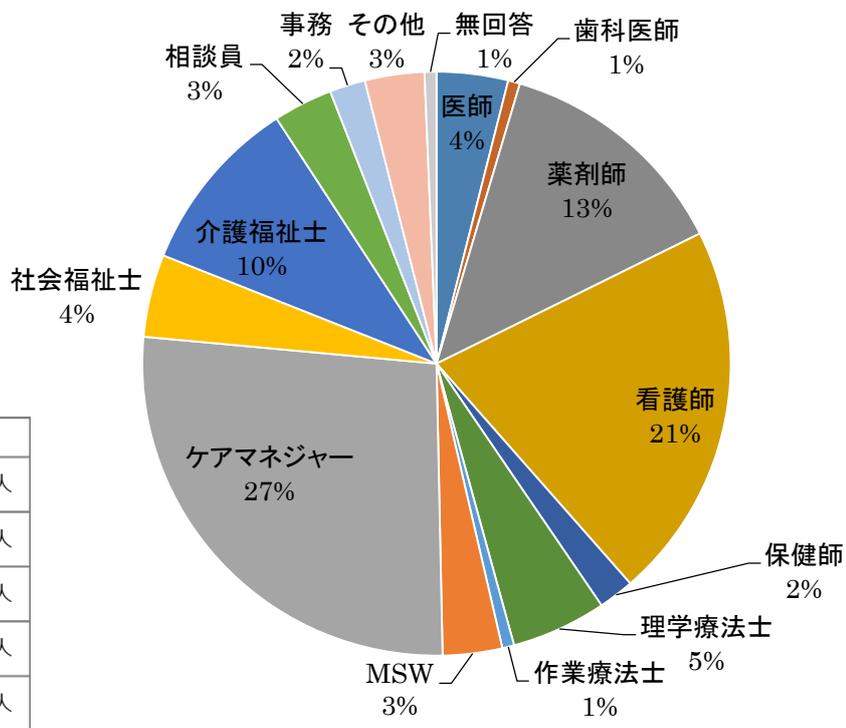
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深める。</li> <li>・大泉地区において事業所間、専門職間で顔が見える関係性を構築する。</li> </ul>														
実施日	平成 27 年 7 月 16 日 (木) 19:00～21:30														
テーマ ねらい	<p>「大泉地区の現状～医療・介護資源から見える特徴～」 大泉高齢者相談センター 医療・介護連携推進員、認知症地域支援推進員 大野 尚美</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大泉地区の高齢者人口、要介護認定者数を把握することで、大泉地区の医療・介護の社会資源の現状と課題を知る。</li> </ul> <p>「在宅療養における多職種連携の課題を考える～独居で末期がんを発症した多系統萎縮症の症例～」 山川クリニック 医師 山川 健太</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種でのタイムリーな情報を共有するうえでの課題を理解し、情報共有のあり方を考える。</li> <li>・ターミナル期の本人の意思確認のあり方と、本人の意思（希望）を尊重したチームアプローチの課題について検討する。</li> </ul>														
プログラム	<p>「大泉地区の現状～医療・介護資源から見える特徴～」 発表者：大泉高齢者相談センター 大野 尚美</p> <p>「在宅療養における多職種連携の課題を考える～独居で末期がんを発症した多系統萎縮症の症例～」 発表者：山川クリニック 山川 健太</p> <p>症例に関わったサービス事業所が感じた課題 (35分：5分×7名)</p> <table border="0"> <tr> <td>発表者：ひかりケア</td> <td>坂井 優子</td> </tr> <tr> <td>大地訪問看護ステーション</td> <td>宮川 恭明</td> </tr> <tr> <td>恵光訪問看護ステーション</td> <td>今西 美佐子</td> </tr> <tr> <td>介護センター健生練馬</td> <td>田中 邦彦</td> </tr> <tr> <td>ソーシャル・サポート大泉</td> <td>佐川 友子</td> </tr> <tr> <td>デイサービスゆとりな</td> <td>野崎 智絵</td> </tr> <tr> <td>ケアプランゆとりな</td> <td>野崎 武</td> </tr> </table> <p>質疑応答、まとめ アンケート記入・休憩（交流会準備）</p> <p>第 2 部 多職種交流会</p>	発表者：ひかりケア	坂井 優子	大地訪問看護ステーション	宮川 恭明	恵光訪問看護ステーション	今西 美佐子	介護センター健生練馬	田中 邦彦	ソーシャル・サポート大泉	佐川 友子	デイサービスゆとりな	野崎 智絵	ケアプランゆとりな	野崎 武
発表者：ひかりケア	坂井 優子														
大地訪問看護ステーション	宮川 恭明														
恵光訪問看護ステーション	今西 美佐子														
介護センター健生練馬	田中 邦彦														
ソーシャル・サポート大泉	佐川 友子														
デイサービスゆとりな	野崎 智絵														
ケアプランゆとりな	野崎 武														
参加者	<p>事前申込者数 186人</p> <p>最終参加者数 169人（参加率 90.9%）（当日参加者数 5人含む）</p>														

【アンケート結果】抜粋

アンケート回答者数 153人（回収率 90.5%）

1 回答者職種

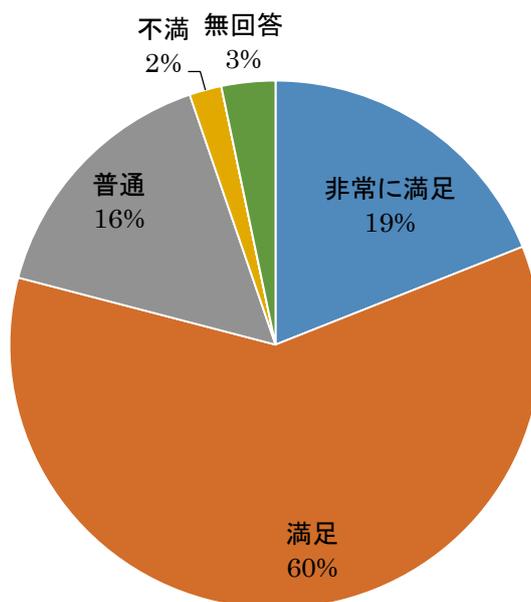
参加者数が多かった職種は順に、ケアマネジャー（41人 27%）、看護師（32人 21%）、薬剤師（20人 13%）、介護福祉士（15人 10%）だった。



※その他の内訳	
ヘルパー	1人
福祉用具専門相談員	1人
開設担当	1人
建築士	1人
経営者兼事務	1人

2 事例検討会の満足度

79%（121人）の方が満足したと回答。



### 3 満足度の自由意見

- 各職種の方がそれぞれ悩みながら対応されていることがわかり、お互いに理解し合うことが必要だと痛感できました。
- このように多職種、多事業所が関わった事例のお話を聞くのは初めてだった。それぞれの立場から意見交換・情報交換をしながら一人の「人」を「その人らしく過ごせるよう」支えていくことの素晴らしさに気づくことができました。
- 情報の共有、医療職と介護職の意識の違い等、問題点や考えなければいけない事を知る事が出来、今後の業務に反映させたいと思った。
- 自分自身が病院で摂食嚥下に関わり、老健、訪問でのリハビリと、色々な場面で対象者とかかわっているの、自分がどんな役割をしていくといいのか考えることができた。
- 各事業所の問題点、情報の共有の必要性、本人の希望にどれだけそって関わる人達が同じ気持、方向性でかかわれるかの大変さは、どこも一緒なんだと感じ再確認でき、次にいかせる話が聞けた事はとても良かったと。
- 在宅で療養する際のポイントは何であるのか、から始まって予後の目安、それ以上を目指すには、どうすればよいのか、等など細かく主治医から指導、助言をすべきと思う。さあ利用者さんのために頑張ろうというスローガンに比重がかかり付け焼き刃的なドタバタが現実であり、それらを乗り越える術を見つけない。
- 検討会というよりは報告会ではないか。参加した私達は何をどう検討したのか、報告をお聞きしただけか。ただ事例については考えさせられることが多かった。多くの事業所を利用せざるを得ないケースについては横のつながりが大切。ケアマネジャーに情報が集められても、本来ケアマネジャーにとって必要じゃない情報もあり、伝言するだけに時間がとられることも多々ある。早めに担当者会議だけでなく事業所間の連携が深まるようマネジメント力をつけたい。